

九州・沖縄母子保健研究出生時追跡調査の結果 妊娠中アルコール摂取と出生時アウトカムとの関連

背景：最近のメタアナリシスによると、妊娠中における母親の軽度から中等度の飲酒と Low birth weight (LBW)、preterm birth (PTB) 或いは small-for-gestational-age (SGA) のリスクと関連を認めませんでした。

方法：九州・沖縄母子保健研究のベースライン調査と出生時追跡調査に参加した 1590 組の母子の内、多胎の 23 組と子供の性別が不明の 2 組を除いた 1565 組の単胎の母子を対象としました。出生時体重 2500 g 未満を LBW、出生時 37 週未満を PTB と定義しました。在胎期間別出生時体格標準値に従い、性別、初産経産別、在胎週別に出生体重が 10 パーセントイル未満を SGA と定義しました。妊娠中のベースライン調査時に自記式食事歴法質問調査票を用いて、過去 1 ヶ月における一日あたりのアルコール摂取量を評価し、None、<1.0 g/day 及び ≥ 1.0 g/day の 3 カテゴリーに分類しました。

結果：7.7%で LBW、4.0%で PTB、7.8%で SGA でした。妊娠中のアルコール摂取の分布は一日あたり 0.0 g から 11.7 g でした。1356 名(86.7%)の妊婦は全く飲酒しておりませんでした。妊娠中非飲酒に比較し、一日あたり 1.0 g 以上の飲酒では有意に PTB のリスクの高まりと関連し、量-反応関係も有意となりました。妊娠中のアルコール摂取と LBW 或いは SGA との間に関連はありませんでした。補正後の出生時平均体重を計算すると、非飲酒群で 3008.7 g、<1.0 g/day 群で 3011.2 g、≥ 1.0 g/day 群で 2952.0 g であり、傾向性 P 値も有意ではありませんでした。母親の年齢、居住地域、子数、母親の教育歴、母親の職業、BMI、妊娠中の母親の喫煙、子の性別を交絡因子として補正しました。

結論：本邦で初めて妊娠中一日あたり 1.0 g 以上の飲酒が PTB のリスクの高まりと関連することを示しました。

母親の妊娠中アルコール摂取	LBW 補正オッズ比	PTB 補正オッズ比	SGA 補正オッズ比
None (n = 1356)	1.00	1.00	1.00
< 1.0 g/day (n = 137)	0.98 (0.46–1.85)	1.69 (0.72–3.51)	0.75 (0.33–1.50)
≥ 1.0 g/day (n = 72)	1.31 (0.52–2.84)	2.58 (1.004–5.80)	1.41 (0.60–2.94)
P for trend	0.64	0.03	0.74

出典： Miyake Y, Tanaka K, Okubo H, Sasaki S, Arakawa M. Alcohol consumption during pregnancy and birth outcomes: the Kyushu Okinawa Maternal and Child Health Study. BMC Pregnancy Childbirth. 2014; 14: 79.